

環境経営レポート

2021年度（令和3年）

（活動期間：2020年10月～2021年9月）



京葉総業グループは、全員で資源リサイクル事業の取り組みを更に推進させる為に、廃棄物のリデュース（発生抑制）・リユース（再利用）・リサイクル（再生利用）の3Rを通じて、環境経営のもと、「地球温暖化防止と資源循環型社会への貢献」に取り組んでいます。

作成：2021年10月29日

株式会社 京葉総業・有限会社 京葉総業

船橋

習志野

八千代

市川

白井

千葉全域

お問い合わせは [✉ contact@keiyo-sogyo.co.jp](mailto:contact@keiyo-sogyo.co.jp)

0120-047-462 (本社)

0120-117-880 (白井中間処理場)

＜ご挨拶＞

地球温暖化・気候変動を起きている中で、我が国もその影響は計り知れなく毎年のように局地的な災害に見舞われています。先人が積み重ねた自然との共生が不確定な時代となり次々と自然破壊に繋がり、人類発の環境破壊は止めどもなく進んでいます。

加えて我が国でも経験した環境負荷のアウトソーシングを展開する側となり、我が国の環境負荷相当分が国外にシフトされ、環境負荷の少ない環境にいいとこどりのチェリーピッキングの製品とサービス業のビジネス分野に転換されています。

リサイクル業として、動脈のモノ作りからの資源は細り、より地域に密着した資源回収に頼らざるを得ません。今後、新型ウィルス禍をはじめ地球規模の環境問題が懸念される中、各企業は「どこに、どこへ、向かうべきか、走りながら現実の経営課題と将来へのビジネスモデルの創出」が問われる時代となりました。当社も環境ソリューションサービスを強みとして、行政・市民・事業者との連携を大切に進めたいと考えています。

その機会としてこの度、運用開始した新ガイドライン2017年版を活用し、新たな要求事項の「課題とチャンス」を全社員と共有し、将来、「エコアクション21に取り組んで良かった」と、皆様と成果を実感できるよう、「環境経営」の推進を果たす所存です。



千葉県の取引先ニーズの先取りで、リサイクルランナーのトップを目指しました。この度の感謝状は、今まで環境経営の継続改善の賜物であり大変感謝しております。

1. 会社組織の概要

		株式会社京葉総業	有限会社京葉総業※
法人設立年月日		昭和 56 年 11 月 13 日	平成 4 年 9 月 24 日
資本金		1,600 万円	300 万円
売上高	2021 年度	620 百万円 (決算期 9 月)	256 百万円 (決算期 8 月)
事業所名		株式会社京葉総業	有限会社京葉総業白井作業所 (産業廃棄物処理中間施設)
代表者名		代表取締役 小出 勉	代表取締役 小出 淳一
所在地		〒274-0817 千葉県船橋市 高根町 2712-1	〒270-1431 千葉県白井市根 13 番 1
ホームページ		http://www.keiyo-sogyo.co.jp/	
環境経営責任者氏名		小出 勉	小出 淳一
担当者連絡先	担当	三宅 由起子	周郷 富友美
	電話)	047-407-7500	047-492-6227
	(FAX)	047-407-7520	047-492-6228
事業活動の内容		①一般廃棄物収集運搬業 ②産業廃棄物収集運搬業 ③特別管理産業廃棄物収集運搬業	①産業廃棄物収集運搬業 ②産業廃棄物中間処理業

※は(株)京葉総業子会社であり、(株)京葉総業代表取締役小出勉の指揮に従い環境経営活動を実施。

株式会社京葉総業 (船橋市)		2019年度	2020年度	2021年度
	従業員(人)	24	24	20
有限会社京葉総業 (白井市)	敷地面積(m ²)	810	810	810
	従業員(人)	13	13	11
	敷地面積(m ²)	6,600	*6,628	*6,628

<集計年度> 2021年度(2020.10~2021.9現在)、白井作業所の敷地面積は事務所増床分含む。

2. 対象範囲(認証・登録範囲)、

認証・登録番号:0002152 認証・登録年月日:2008年2月5日 認証取得(取得後13年目)

認証・登録事業者名:株式会社京葉総業

対象事業所:本社(株)京葉総業、所在地:千葉県船橋市高根町2712-1)

白井作業所(有限会社京葉総業、千葉県白井市根13番1)

事業活動内容:一般廃棄物収集運搬業、産業廃棄物収集運搬業、

特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業

3. 許可内容

株式会社 京葉総業

<産業廃棄物の収集運搬業>

自治体	許可番号	許可年月日 許可の有効 年月日	水銀	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	くず、水銀	プラスチック・陶磁器	ガラス・コンクリ	がれき類	ばいじん
*千葉県	1200026079	H29.2.20 R6.2.19	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	●		○	○	○
*東京都	13-00-026079	R1.11.8 R8.11.7			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
*神奈川県	01400026079	H25.12.19 R7.12.18		○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●	●		○	○	○

●自動車等破砕物を除く *印は優良事業者として認定取得

<一般廃棄物収集運搬業>

自治体	許可番号	許可年月日	許可有効期限
船橋市	第19号	R2.4.1	R4.3.31
八千代市	第8号	R2.4.1	R4.3.31
習志野市	習志野市第01-011号	R2.4.1	R4.3.31

<特別管理産業廃棄物収集運搬業>

自治体	許可番号	許可年月日・許可有効期限	廃棄物の種類
*千葉県	第01250026079号	H29.2.20~R6.2.19	廃油、廃酸、廃アルカリ
*神奈川県	第01450026079号	H25.12.19~R7.12.18	感染性産業廃棄物
*東京都	第13-50-026079号	R1.11.29~R6.11.28	廃油、廃酸、廃アルカリ

*印は優良事業者として認定取得

有限会社 京葉総業

<産業廃棄物の収集運搬業>

自治体	許可番号	許可年月日 許可の有効 年月日	水銀	燃え殻	汚泥、水銀	漆油	漆酸	漆アルカリ	フ領	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	ゴムくず	金属くず	磁器くず、水銀	リートくず・陶	ガラス・コンク	鉱さい	がれき類	まいじん	
千葉県	01200107401	H31.1.18~ R5.11.17		○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●		●				○	○
東京都	13-00-107401	R1.5.24~ R6.5.9			○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●		●				○	
神奈川県	01402107401	R1.5.24~ R6.5.23			○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●		●				○	
埼玉県	01107107401	R1.6.7~ R6.5.20			○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●		●				○	
茨城県	00801107401	R1.5.31~ R6.5.24			○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	●		●				○	

●自動車等破砕物を除く

<産業廃棄物処分業>

名称	有限会社 京葉総業	自治体	千葉県		
許可番号	第 01220107401 号	許可年月日	H31.2.7	有効年月日	R6.1.8
事業の区分	破砕及び圧縮による中間処理				
産業廃棄物の種類	<破砕による中間処理に係るもの> ① 廃プラスチック類 ②紙くず ③木くず ④繊維くず ⑤ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず				
	<圧縮による中間処理に係るもの> 金属くず、廃プラスチック類				

(これらのうち、石綿含有産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く)

【処理能力】～設置場所:千葉県白井市根字下郷谷 13 番 1, 14 番

施設の種類の	数量	処理能力 (設置年月日)	
破砕施設 No. 1	1	廃プラスチック類	3. 12 t / 日 (0.39t/時×8時間)
		紙くず	3. 28 t / 日 (0.41t/時×8時間)
破砕施設 No. 2	1	木くず	3. 92 t / 日 (0.49t/時×8時間)
		繊維くず	3. 92 t / 日 (0.49 t/時×8時間)
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	4. 77 t / 日 (0.596 t/時×8時間) (平成 15 年 11 月 21 日)
			(令和 2 年 11 月 18 日)

圧縮施設	1	金属くず	7. 9 2 t / 日 (0.99t/時×8時間)
		廃プラスチック類	6. 3 2 t / 日 (0.79t/時×8時間)
(令和2年11月18日)			

【保管量】～保管場所：千葉県白井市根字下郷谷13番1、14番

主な施設の種類の種類		数量	保管量	
処理前物保管施設	搬入品一時保管施設	2	6.8 m ²	8.1 m ³
	(廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず)		(コンテナ保管)	
	廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設	2	36 m ²	52 m ³
	(RPF原料用)			
	廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設	2	36 m ²	52 m ³
	(RPF原料用以外)			
	紙くずの保管施設	1	36 m ²	52 m ³
	木くずの保管施設	1	36 m ²	52 m ³
	金属くずの保管施設	1	6.8 m ²	8.1 m ³
			(コンテナ保管)	
	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの保管施設	1	6.8 m ²	8.1 m ³
			(コンテナ保管)	
処理後物保管施設	廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設	1	36 m ²	52 m ³
	(RPF原料用)			
	廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くずの保管施設	1	36 m ²	52 m ³
	(RPF原料用以外)			
	木くずの保管施設	1	6.8 m ²	8.1 m ³
				(コンテナ保管)
	金属くずの保管施設	1	6.8 m ²	8.1 m ³
				(コンテナ保管)
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの保管施設	1	6.8 m ²	8.1 m ³	
			(コンテナ保管)	
	残さ物の保管施設	1	6.8 m ²	8.1 m ³
			(コンテナ保管)	
廃プラスチック類の保管施設 (処理前物)		1	6.8 m ²	8.1 m ³
				(コンテナ保管)
廃プラスチック類の保管施設 (処理後物)		1	8.2 m ²	8.2 m ³
				(パレット保管)

【処理工程】

選別→破碎→出荷 (リサイクル、処分) 及び選別→圧縮・梱包→出荷 (売却)

<施設等の状況(令和3年10月29現在)>

	株式会社 京葉総業	有限会社 京葉総業
運搬車両	4トンパッカー車 4台	4トンパッカー車 1台
	3トンパッカー車 10台	2トン平ボディ車 2台
	2トンパッカー車 2台	4トンアームロール車 4台
	4トンアームロール車 2台 *	2トンドンプ車 1台
	2トン平ボディ車 7台 *	
	バン 1台 *	
	冷蔵冷凍車 1台 *	
計27台(*印は産廃車、他一廃車)	計8台(産廃用車両)	
車両系建設機械等 (重機類)	—	ペーローダー 2台
	—	ユンボ 3台
	—	1.5t/2t フォークリフト 3台
	—	破碎機 55kW 1台
	—	圧縮機(10/12 縮小) 1台

お客様の立場に立って、「安全・安心・確実に！」をモットーに従事しています。



4. 産業廃棄物の処理実績 (受託分の処理量～収集運搬量、中間処理量、最終処分量)

株式会社京葉総業 : 年度 (単位: t)	2019年度	2020年度	2021年度
一般廃棄物収集運搬量	9,807	8,302	7,227
産業廃棄物収集運搬量(特管含む)	3494	4,336	4,184
*医療系・感染性産廃収集運搬量	23.1	22.6	25.2

*活動期間を会計年度(10月～9月)に合わせた。 *特別管理産業廃棄物

有限会社京葉総業 : 年度 (単位: t)	2019年度	2020年度	2021年度
産業廃棄物収集運搬量	471	572	522
産業廃棄物処分量(中間処理)	3,498	3,625	3,289
うち再資源化等量	3,316	3,549	3,197
*中間処理後再資源化等量(最終処分量含む)	2,410(851)	2,592(957)	2,382(814)

*活動期間を会計年度(10月～9月)に合わせた。 *単純焼却含む。

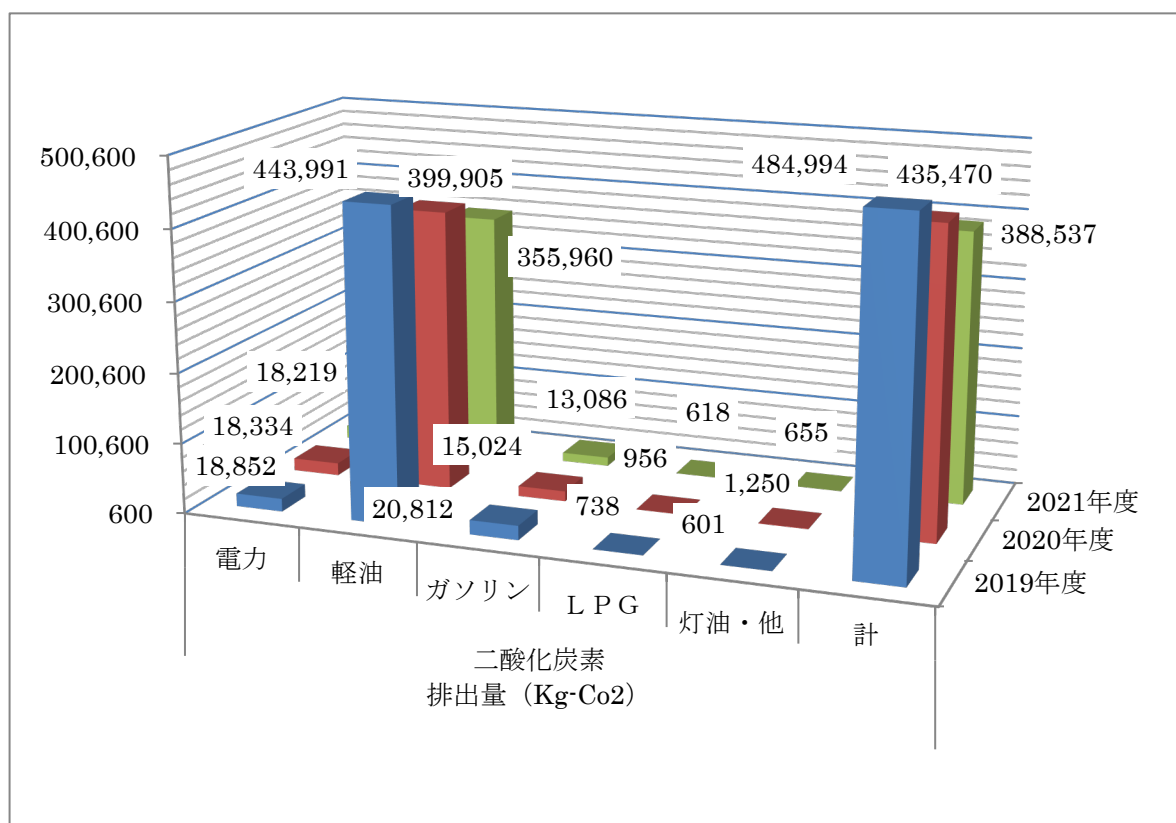
5. 廃棄物処理料金～料金は種類, 性状, 量, 運搬距離等に個別見積。(無料)

6. 環境負荷の状況

2020年度(2019.10~2020.9)		単位	全社合計	本社(船橋)	白井作業所	
二酸化炭素排出量 合計		kg-CO ₂	388,537	284,465	104,072	
購入電力			18,219	4,025	14,194	
化石燃料			370,318	280,440	89,878	
受託分	産業廃棄物	収集運搬量	t	4,622	4,184	522
		中間処理量		3,289	-	3,289
		処理後最終処分量		814	-	814
	一般廃棄物	収集運搬量		7,227	7,227	-
水資源投入量	地下水使用量	m ³	567	70	497	
総排水量	合計		567	70	497	

- 1) 購入電力の排出係数について CO₂ 実排出係数は 0.474kg-CO₂/kWh を適用。
- 2) LPG: 1m³=2.18kg の日本 LP ガス協会の換算値を使用。
- 3) データは、株式会社京葉総業、有限会社京葉総業の合計値。
- 4) 水資源投入量は、(株)京葉総業は地下水メータ付けてないため推定量(年間 70 m³)を適用。
- 5) 事業活動に伴う自社分廃棄物の排出量は、一般廃棄物 (OA 用紙等本社:55kg、白井:40kg) がある。

＜主なエネルギーの二酸化炭素排出量推移（3年間）＞
全社 2019年度～2021年度状況



7. 環境経営方針

《 環境経営方針 》

当社は、「地球と地域に貢献する企業」をモットーに、一般廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の収集運搬（特管廃棄物を含む）及び中間処理を通して、当社の関係する環境関連の法令等の遵守と共に、環境に配慮したリサイクル活動を推進し、地球温暖化防止と資源の有効活用を図るために、経営に於ける「課題とチャンス」を踏まえ、以下の環境経営目標に取り組み、継続的改善に努めます。

《 環境経営目標 》

1. 排出事業者様とのコミュニケーションを積極的に計り、リサイクルの拡大を図ります。
特に、リサイクル拡大の課題とチャンスを踏まえ、分別等の提案に努めます。
2. 社内での省資源・省エネ活動を推進し、地球温暖化防止と資源の有効活用を図ります。
特にエネルギー使用の課題とチャンスを踏まえ、中間処理設備の電力使用量、及び収集運搬車と重機の軽油使用量の削減に努め、地球温暖化防止を推進します。
3. コピー用紙の削減をはじめ、文書の電子化、オフィスのスリム化等に努めます。
4. 排出事業者様からの信頼を大切に、優良産廃処理業者として、地域社会の良き環境パートナーとして広報活動を推進し、循環型社会へ貢献して行きます。

当社の環境経営方針は掲示すると共に、全従業員が周知します。

また、環境への取組状況を「環境経営レポート」と、当社ホームページで公表して行きます。

制定 2007年 4月 1日
改定 2021年10月 29日

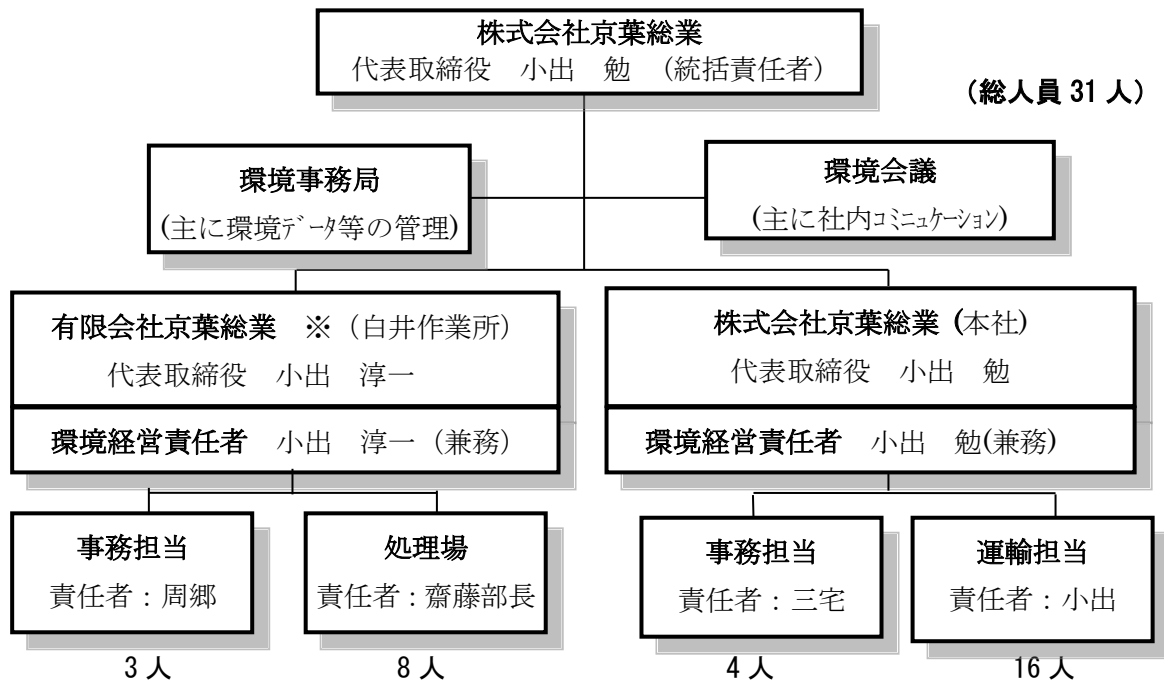
株式会社京葉総業 有限会社京葉総業

代表取締役 小出 勉

8. 組織図

<環境経営組織図>

2021.10.29 作成



※(株)京葉総業子会社であり、(株)京葉総業代表取締役小出勉の指揮に従い環境経営活動を実施。

<役割・責任・権限>

代表者 (統括者)

- 1) 環境経営方針と経営の「課題とチャンス」の明確化
- 2) 環境マネジメントシステムの実施と管理に必要な人、物、金の提供
- 3) 環境マネジメントシステムの実施、維持及び権限を有する環境経営責任者の任命
- 4) 環境経営方針の制定、周知
- 5) 環境関連文書類の承認 (環境経営レポート含む)
- 6) マネジメントレビューの実施

環境経営責任者

- 1) 環境経営目標計画 (中期)、環境経営計画 (年度) の作成及び管理
- 2) 外部環境情報の窓口及び対応
- 3) 遵法評価の実施
- 4) 環境関連文書類の作成 (環境経営レポート含む)
- 5) 是正・予防処置の指示、有効性の確認
- 6) マネジメントレビューのための情報提供及び記録の作成

各責任者・従業員

- 1) 環境経営目標計画 (中期)、環境経営計画 (年度) の実施と結果報告
- 2) 是正・予防処置の実施

環境事務局

主に会議の進行と結果の取り纏め、環境情報の取り纏め含めた環境経営責任者の補佐

- 1) 環境経営責任者の補佐、環境会議の事務方
- 2) 環境データの把握と入力管理 (環境負荷チェック・環境取組チェック)
- 3) 環境経営活動の実績集計

4) 環境関連の外部コミュニケーション窓口

5) 環境経営レポートの取り纏めと公開

環境会議

主に社内外の周知事項の伝達、報告（環境経営活動の進捗・結果報告含む）

1) 環境経営目標、環境経営計画等の協議・発案

2) 環境会議の開催（定期・臨時）、環境経営目標達成状況・環境経営活動の実施状況の確認

9. 2020年度環境経営目標と主要な環境経営計画（2020年度～2023年度） 年度（10月～9月）

環境方針	環境目標	責任部門	基準値	年度毎目標と主な達成 (取組の自己チェックを踏まえて策定)							
		責任者	(準年度 2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度					
二酸化炭素排出量の削減	中間処理設備の電力使用量削減による二酸化炭素排出量削減	井業 白作所	電力使用量削減	基準年度比目標値	99%	98%		97%			
			電気使用量 31,175kWh	実績	30,863 kwh	30,552 kwh		30,240 kwh			
			電気原単位 8.91kWh/t(処理量)	"	5.54						
			実績評価	"	○	—		—			
			中間処理量 3,498t	"	3,289t						
		境任 責任者	達成手段	定期点検等励行で故障件数削減(破碎機)		定期点検等励行で故障件数削減(破碎機)	定期点検等励行で故障件数削減(破碎機)		定期点検等励行で故障件数削減(破碎機)		
				処理作業の効率化		処理作業の効率化	処理作業の効率化		処理作業の効率化		
				作業所の空調温度の適正化		作業所の空調温度の適正化	作業所の空調温度の適正化		作業所の空調温度の適正化		
				(冷 28℃暖房 20℃)		(冷 28℃暖房 20℃)	(冷 28℃暖房 20℃)		(冷 28℃暖房 20℃)		
	収集運搬車両の軽油使用量削減による二酸化炭素排出量削減	本社	軽油使用量削減	基準年度比目標値	99%	98%		97%			
			軽油使用量 130,769 ℓ	実績	129,460 ℓ	128,153 ℓ		126,845 ℓ			
			軽油原単位 9.81 ℓ/t(収集+処理)	"	7.72 ℓ/t						
			実績評価	"	○	—		—			
			収集運搬量 13,324t		13,253						
			(一般廃) (9,807)		(8,302)						
			(産廃) (3,517+471)		(4,379+572)						
		産廃中間処理量 3,498t		4,625t							
		環境 管理者	達成手段	効率的な収集ルートの確認・指示		効率的な収集ルートの確認・指示	効率的な収集ルートの確認・指示		効率的な収集ルートの確認・指示		
				繰り返し修理車両の監視と修理費の節減		繰り返し修理車両の監視と修理費の節減	繰り返し修理車両の監視と修理費の節減		繰り返し修理車両の監視と修理費の節減		
修理履歴等の携行カード備付				修理履歴等の携行カード更新版の備付	修理履歴等の携行カード更新版の備付		修理履歴等の携行カード更新版の備付				
		オイル・エレメントの定期交換等による故障防止		オイル・エレメントの定期交換等による故障防止	オイル・エレメントの定期交換等による故障防止		オイル・エレメントの定期交換等による故障防止				

環境経営の推進・省資源・省エネの推進	分析と処理課題創出 廃棄物処理コストの削減	本社	経営課題へのチャレンジ（新規）	基準 年度 比	現状分析	目標設定	目標展開・試行
			（一廃・産廃の拡充策）	目標 値	年度内に分析迄の実 施	年度内に目標設定の 実施	年度内に目標展開の 実施
			実績（評価）		予定通り進捗（○）		—
		環境 責任 者	達成 手段	処理実績把握・分析 一廃・産廃の比較等 実施	課題・チャンス設定 経営貢献度の高い目 標設定	取組新目標展開実施 新目標の展開実施	
	本社		OAの改善促進	基準 年度 比	99%	98%	97%
		2019年度実績 174kg	目標 値	172 kg	171 kg	169 kg	
			実績	126 Kg			
	実績（評価）		○	—	—		
	環境 責任 者	達成 手段	業務連絡のメール化	業務連絡のメール化	業務連絡のメール化		
			社内資料のデータ共有化	社内資料のデータ共有化	社内資料のデータ共有化		
印刷ミス用紙の裏紙使用			印刷ミス用紙の裏紙使用	印刷ミス用紙の裏紙使用			
環境経営の推進	の推進 の拡大 （新規顧客の獲得処理量）	白井 作業 所	経営課題へのチャレンジ（新規）	基準 年度 比	現状分析	目標設定	目標展開
			（産廃の拡充策）	目標 値	年度内に分析迄の実 施	年度内に目標設定の 実施	年度内に目標展開の 実施
			中間処理量（白井） 2019年度 3,498t	実績	予定通り進捗		
		実績（評価）		○			
	環境 責任 者	達成 手段	処理実績把握・分析 産廃の比較等実施	課題・チャンス設定 経営貢献度の高い目 標設定	取組新目標展開実施 新目標の展開実施		
白井 作業 所		地下水資源の有効使用徹底	基準 年度 比	99%	98%	97%	
	2019年度実績 882 m ³	目標 値	873 m ³	864 m ³	856 m ³		
		実績	497 m ³		—		
	実績（評価）		○				
環境 責任 者	処理施設の適正運転による節水	処理施設の適正運転による節水	処理施設の適正運転による節水	処理施設の適正運転による節水			
	洗車水の適正利用	洗車水の適正利用	洗車水の適正利用	洗車水の適正利用			
環境経営の推進	の獲得	本社	新規顧客の拡大	基準 年度 比	105%	110%	115%
			2019年度実績 120件	目標 値	126 件	132 件	138 件
			実績（評価）		41件（×）	—	—
	環境 責任 者	2018年度	達成 手段	朝礼等での現況確認と指示	朝礼等での現況確認と指示	朝礼等での現況確認と指示	
				提案優秀者の表彰	提案優秀者の表彰	提案優秀者の表彰	
	白井 作業 所	新規顧客の拡大	基準 年度 比	105%	110%	115%	
2019年度実績 83件		目標	98 件	102 件	107 件		

			実績（評価）		値				
			2018	年度	達成手段	116件(○)	—	—	
環境経営の推進	盤の強化 地域社会貢献の推進と共に経営基	環境責任者	B C P (事業継続計画)体制の確立		基準年度比	情報収集・現状把握	運用イメージ・展開計画	教育・試行運用	
			2017	年がトライン	目標値	達成手段・施策の期限内実施	達成手段・施策の期限内実施	達成手段・施策の期限内実施	
		実績（評価）		予定どおり実施					
		環境責任者	災害等の緊急対応		達成手段	ネット・省庁等からの情報収集とマニュアル化検討	運用イメージからマニュアル作成	運用計画・防災ハンドブック等の作成と携行	
						社内の現況把握と運用可否検討し構築計画を立案	導入から運用計画の作成	教育・訓練の実施	
○：80%以上 △：40%以上 79%以内 ×：40%以下 で評価。									

10. 2020年度環境経営目標の取組結果及び環境経営活動取組結果とその評価並びに次年度の取組

(活動期間 2020年10月～2021年9月)

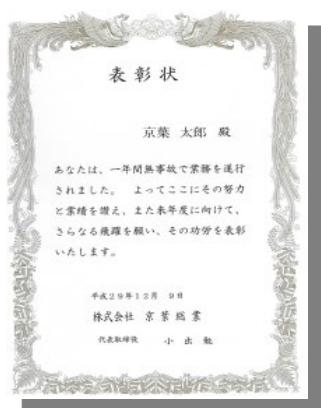
項目	実施部門	目標値	実績値	達成率	評価	取組結果と次年度への取組
二酸化炭素排出量削減 二酸化炭素排出量削減	白井	処理施設 電力使用量 30,552kWh内	31,058 kWh	98%	○	空調設備等の適正使用徹底も、破碎機新設により電力使用量増加し、僅かながら目標値はクリアに至らず。次年度は電気原単位の改善にも取り組む。
	本社	収集運搬車両 の軽油使用量 128,653ℓ内	105,577 ℓ	121%	○	コロナ禍感染対策の上、効率的な収集ルートへの把握と指示により、順調に推移した。次年度は軽油原単位の改善にも取り組む。
廃棄物処理コスト分析と処理課題の創出	本社	データ 把握・分析	年度内 把握分析	予定通 り進捗	○	一廃／産廃の品目別運搬量・処分費等集計表と売上費目別管理表を作成・分析の結果、当面、一般廃棄物にターゲットを絞った目標設定を図り、効果的・経營的リサイクルの推進を図る。
コピー用紙の削減	本社	171kg以下	126kg	135%	○	P D F等イメージ印刷確認によるミスの防止と、社内文書の電子化・共有化により目標達成。
産業廃棄物リサイクル推進	白井	新規顧客獲得	年度内 把握分析	予定通 り進捗	○	産廃の品目別運搬量・処分費等集計表を作成し新規顧客の拡大を図る。

地下水の使用量削減	白井	864 m ³ 以下	497 m ³	173%	○	高圧温水洗浄機を用いての車両洗浄により、洗車時間の短縮と節水に繋がりました。目標達成。（昨年の回転式スプリンクラー使用しての場内散水による節水と合わせ活用し目標達成。）次年度も継続し使用量を削減する。
広報・提案活動で顧客拡大	本社	提案 132 件	41 件	31%	×	本社はコロナ禍に伴う接客件数の大幅減が響いた。次年度以降、広報活動の強化策として、「優良産廃 NET の子更新管理」、「船橋市・フェイスビルの広告メッセージ更新管理」、船橋市便利帳の2年ごとの刷新管理」を年度計画の上強化する。対面からリモートでのコンタクトを検討する。
	白井	提案 102 件	116 件	113%	○	
地域社会貢献の推進と経営基盤の強化	本社	情報収集	年度内把握・分析	予定通り進捗	○	災害対策等に新型コロナウイルス対策を追加し、事業継続策定様式を入手の上、当社で適用可能な運用箇所を選定し運用マニュアルを完成予定。

【評価欄について】

削減する目標は目標／実績×100(%)、増加する目標は実績／目標×100(%)の算出値を達成率とし

○：80%以上 △：40%以上79%以内 ×：40%以下 で評価。



エコドライブに心掛け、プロドライバーとして安心・安全への努力とルールへの遵守状況の評価し、毎年度エコドライブ推進と無事故運転の社員を表彰。今後も評価・表彰制度の継続と充実に努めます。

1.1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

2021年10月28日に環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、環境関連法規等への違反はない。尚、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘はない。利害関係者からの苦情等については、10月船橋市内の収集運搬に於いて、PCR検査場で巻き込み中にごみ袋が破裂し、回収場所周辺にごみ等が飛散した事態となったが、迅速な処置対応とその後の防止徹底後は、当件含め苦情は発生していない。

【主な環境関連法規】

廃棄物処理法、自動車NOx・PM法、道路運送車両法、貨物自動車運送事業法、浄化槽法
消防法、騒音規制法、労働安全衛生法、フロン排出抑制法(業務用空調機、冷蔵冷凍車、重機)

1.2. 代表者による全体の評価と見直し指示 (2021年10月29日実施)

コロナ禍の影響により、顧客との接触が減少しリサイクルの提案目標は未達成であったが、収集量・処理量の若干の減少も有るが、二酸化炭素排出量をコロナ禍前より大幅に20%削減でき又、売上も前年並みを確保出来た点は、大きな成果であった。

特に、全社の二酸化炭素排出量の73%を占める本社(船橋)の軽油使用量削減(約20%)が寄与した。尚、他の目標は概ね達成した為、継続して現中期計画を遂行していく。

(1) 環境経営責任者からの報告

報告項目	報告内容	評価
環境経営システム	新ガイドライン適用の環境経営マニュアルに従い、計画通り取り組め、規定・手順等に問題ないことを報告。	○
環境目標及び活動実績	2019年度を基準年度とした、新たな中期目標は概ね達成した。特に二酸化炭素の排出量の削減は、最大負荷91%の軽油使用量の削減で、二酸化炭素排出量は前年比11%削減、コロナ禍前比20%削減。	○
環境関連法の遵守状況	環境関連法令登録表により、2021年10月28日に遵法性を確認し問題は無い事を報告。	○
外部から苦情・要望	環境に関わる苦情の発生が1件発生した事を報告。(パッカー車巻き込み中にごみ袋破裂し、廃油等がPCR検査場内で飛散事態発生)	○
緊急事態訓練	火災発生時と運搬車両事故時を想定した訓練を実施し、特に問題なく実施成果を得た旨報告。(手順書の改定も不要と判断)	○
前回レビュー時の指示事項の対応状況	前年度の定期レビュー時の指示事項について、2019年度基準の新中期計画と年度計画の策定指示事項は履行されていた事を報告。	○

(2) 代表者による指示事項

変更の必要性の有無	① 環境経営方針	課題とチャンスの取組追加等追加で改定。
	② 環境経営目標	同上(新規取組目標の見直しは次年度)
	③ 環境経営計画	同上(新規取組目標の見直しは次年度)
	④ 環境経営システム(組織体制を含む)	会議・事務局の明記を追加。

以上